



企業の独立性と可能性

令和6年11月2日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

自己資本という基盤は、技術の飛躍とともに可能性と独立性を実現できる。これらは企業の目標とビジョンを明確にし、企業経営における資本計画を要求する。

これらは企業の健全性は正しい現実の構築を求め、これらは企業の倫理的正しさを自己として要求されるのである。

これら企業の健全性は拓かれた企業風土とともに、その独創性や創造性を提案できるのである。

これらが時代性とともにした企業の理想である。企業の可能性は資本と技術によるものである。

これらはグローバル基準における企業経営を可能とし、それら現実が時代編家という新しい現実への参加と新たな未来という現実への参加を実現できるのである。

これらは経営者への正しい認識であり、これら企業の健全性は正しい経営行動において存在するのである。

企業の健全性の構築はその安定性であり、すべての市場認識を経た企業の安定した自己構築なのである。

対外交渉において企業の正しさという基盤は、その関係の良好さや、両者への利益構築を可能とするのである。

これらは企業の方向性が誤った認識においてこれを失い正しい理解においてこれを実現していることを意味するものである。

企業の健全性という基盤は可能性の創造を実現する唯一の基盤なのである。そのため正しい企業経営がこれを可能とするのである。